

平成31(2019)年第8期事業報告

自平成31(2019)年4月1日

至令和2年3月31日

令和2年6月20日

一般社団法人輝水会

I 法人の概況

当法人は2012年（平成24年）7月11日に設立し、令和2年3月31日、第8期事業年度を終えた。

当法人はこれまで、定款において事業の対象を、「障害のある人、生活機能に課題のある人など、様々な状況にある人」を、当期より具体的に「脳損傷や神経難病などにより生活機能に課題のある人」に一部変更した。また、基幹事業について水中リハビリテーションとリハビリテーション・スポーツを区分せず、その対象者を全人的「復権」（主体性の回復）という社会リハビリテーションの重要な側面から、誰もがわかりやすい『スポーツ』を“一緒に楽しむ仲間”と捉え、たとえ障害があっても自分が持つ潜在能力を活用して、自立（自律）と社会参加のきっかけを提供し、人が誰でも有するすばらしい“生きる力”（生活機能）を発揮する手伝い（支援）を意図し、支援する側と同列に位置づけている。

この考え方のもと、当法人が得意とするスポーツをツールとした、脳損傷や神経難病などにより生活機能に課題のある人を対象に、健康づくりに特化した制度の隙間を埋めていくインフォーマル（制度化されていない）なサービスを提供している（実施・調査研究及び普及・促進並びにそれに関する提案事業）。

次に以下に掲げる公益目的事業を行ない、生活の質の向上を図り公益の増進に寄与してきた。

- (1) 水中リハビリテーション及びリハビリテーション・スポーツの実施・調査研究及び普及・促進並びにそれに関する提言事業
- (2) リハビリテーション・スポーツの支援及び能力開発事業

II 重要な報告事項

1. 公益財団法人世田谷保健センターとの連携協定

当法人は、2017年（平成29年）6月公益財団法人世田谷保健センター（以下、「保健センター」という）間において、新たな障害者の健康づくりのプログラムの推進に係る、障害者のリハビリテーション・スポーツプログラムの普及・推進に関する連携協定を締結し、本年で3年目を迎えた。世田谷区が推進する「障害のある人の健康づくり」の一環として、本連携協定に基づき区内の既存の集会室や体育館を使用し、世田谷区在住の当事者、家に閉じこもりがちな高齢者を対象にリハビリテーション・スポーツ講座を前期・後期の2回実施した。特に介護保険などの利用が不可能な若年層の当事者は、制度の狭間で行き場を模索しているケースが多い。リハ・スポーツのような制度化されていない取り組みを広く周知していく事に力を注ぐとともに、自主活動の拠点（松原・若林・希望が丘）の拡充とサポートを行った。

2. HP のリニューアル

前期、東京都福祉保健局が行っている東京ホームタウンプロジェクトのプロボノ長期支援を受け、HP 内容改善のためのアドバイスを受けた。それをもとに、当法人の基幹事業である、水中リハビリテーション及びにリハビリテーション・スポーツをより明確に示せるよう具体的なリニューアルを行った。

3. 平成 31 (2019) 年度寄附金について

社員 2 名・賛助会員 2 名 (敬称略) より、計 61,000 円の寄付があった。

		入金日	氏名	金額 (円)
平成31(2019)年度				
	賛助会員	6月28日	長谷川幹	15,000
	個人正会員	6月28日	長谷川幸子	8,000
		7月20日	久木田八郎	38,000
			合計	61,000

平成 31 (2019) 年度の寄付金の主な用途は、以下の通りである。

公認会計士からのアドバイス費用の一部

Ⅲ 各事業の活動報告

(1) 水中リハビリテーション及びリハビリテーション・スポーツの実施・調査研究及び普及・促進並びにそれに関する提言事業に関する事項

(1) - 1 リハビリテーション・スポーツの実施

① リハビリ・スポーツ講座

世田谷区保健センターとの連携協定に基づく「新たな障害者の健康づくりのプログラムの推進に係る、障害者のリハビリテーション・スポーツプログラムの普及・推進」として、前期：令和元年 10 月 13 日～7 月 8 日までの隔週月曜日、全 5 回
後期：令和元年 10 月 4 日～12 月 6 日、隔週金曜日全 5 回「リハビリ・スポーツ講座」を開催した。

【場 所】前期：烏山区民センターグリーンルーム

後期：千歳温水プール集会室

【スタッフ】前期：露崎（輝水会社員）和島（保健センター運動指導員）看護師

後期：手塚（健康運動指導士）和島（保健センター運動指導員）看護師

【参加者数】前期：男性4名 女性5名 小計9名

後期：男性4名 女性6名 小計10名 合計19名

【参加者属性】

脳血管疾患14名・脳性麻痺1名・変形性関節症1名・難聴1名
パーキンソン病1名・進行性核上性麻痺1名

【2019年度リハ・スポーツ講座報告】

1. 種目への自信

No.	合計		卓球		ボッチャ		水中運動		水泳	
	初回	5回目	初回	5回目	初回	5回目	初回	5回目	初回	5回目
6	8	11	2	3	1	3	2	3	3	2
2	5	10	2	2	1	2	1	3	1	3
3	6	7	1	1	1	2	2	2	2	2
14	8	8	2	2	1	2	3	2	2	2
4	6	7	3	3	1	1	1	2	1	1
13	10	10	3	3	2	2	3	3	2	2
9	12	11	3	3	3	3	3	3	3	2

1 全く自信がない 2 あまり自信がない 3 まあ自信がある 4 大変自信がある

参加前に自信がなかった者(1および2)は、今回の講座によって実施種目への自信が高まっている。特に実施回数が多かったボッチャで、変化が多くみられた。

一方、もともとある程度自信のある者(3)は天井効果によって変化がみられていないと思われる。

また、今回の講座では水中運動および水泳は実施していないが、No.2,4,6において増加がみられており、多種目への波及効果が示唆された。

以上から、本講座において特に効果が見込めるのは、もともと種目に自信がない者であり、水中運動や水泳にチャレンジする準備ができると思われる。

2. 自己効力感（増減）

No.	自己効力感 4つの情報源				種目の自信					一般性 セルフ エフィ カシー	転倒 セルフ エフィ カシー
	遂行 行動 の達成	代理的 経験	言語的 説得	情動的 喚起	合計	卓球	ボツ チャ	水中 運動	水泳	合計	合計
6	+	+	+	+	3	1	2	1	-1	2	-8
2	+	+	+	-	5	0	1	2	2	0	5
3	-	-	+	+	1	0	1	0	0	2	0
1 4	-	-	-	+	0	0	1	-1	0	-3	1
4	+	+	+	+	1	0	0	1	0	-3	1
1 3	+	+	+	+	0	0	0	0	0	0	-3
9	+	+	+	-	-1	0	0	0	-1	-8	-7

（実施前に種目の自信が低かった者で）4つの情報源を多く得た者（6,2,3,14）は、一般性セルフエフィカシー（自分自身の行動全般に対する自信）が上昇する傾向にある。このことから、種目の自信が低い者を対象とした講座の中で、4つの情報源を多く得られるように介入することで、種目への自信を高め、一般性セルフエフィカシーを高めることが期待される。

また、種目の自信のうち、水泳が低い者（1,9）は、（他の種目が高い者でも）転倒セルフエフィカシー（歩行が含まれる日常生活動作）が大きく低下しており、水泳に対する自信との関連が示唆される。よって、水泳の実施により自信が向上することで、転倒セルフエフィカシーを向上させることができる可能性がある。

以上から、今後の課題として、水中種目の実施につなげる取り組みにより、水中種目への自信を高め、さらには陸上での歩行が含まれる日常生活動作に対する自信を向上させ、活動性の向上が期待できる。

【まとめと課題】

リハビリ・スポーツ講座は、世田谷保健センターと協同開催して3年目である。本年は梅が丘拠点への移転準備のため、通常の実施回数を減らし隔週の開催で全5回の実施とし、水中運動体験は当法人が別途希望者に行うこととした。このプログラムを必要とする人に届けるためには、地域の支援者・あんしんすこやかセンター等、家に閉じこもりがちの高齢者や障害のある人が相談に行きやすい行政、また、参加を促すための後押しが可能な人に周知を図ることが重要である。

② その他

- ・「リハ・スポーツ講座」終了後の自主活動へのサポート

平成28年度～平成31年度のリハ・スポーツ講座に参加終了者の自主活動は、世田谷保健センター、世田谷区社会福祉協議会等の協力を得て2020年3月現在、毎週月曜日の活動を続けており、「せたがやY・Yリハスポクラブ」と命名し、松原地区、若林地区に加え希望が丘地区において毎週の平均参加者10名（障害のある人12名、その妻3名他サポートメンバー）延べ320名が活動に参加した。今後も活動を見守りながら、円滑に自主活動が継続できるようサポートを行っていく。

- ・ボッチャ体験を通じた共生社会作り

世田谷区九品仏地区において、2019年6月～10月、8回に渡り、障害者施設や高齢者施設において、ボッチャを用い、地域の障害のある人とあんしんすこやかセンター職員並びに社協推進委員等との交流をはかった。延べ194名の参加になり、移動困難な障害のある人は所属する施設において交流会を開催することで参加可能になる。人の多様性を包括する地域づくりに有意義な取り組みとなった。

(1) - 2 水中リハビリテーションの実施

国立障害者リハビリテーションセンター、研究者の河島則天氏よりアドバイスを
得て、陸上での通常のリハビリテーションが困難な神経難病などの罹患者に対し、
水中におけるリハビリテーションを、定期的に実施した（合計61回）。

小脳振戦（男性）38回・脊椎小脳変性症（男性）8回・原因不明の下肢麻痺（男
性）15回

(1) - 3 リハビリテーション・スポーツの調査研究

- ① 第22回日本運動疫学会学術総会大会（2019/6/22・23 慶應義塾大学）において、
ポスター発表を実施した。

演題名：障害者の主体性を引き出す「リハ・スポーツ教室」実践報告～世田谷モ
デル構想に向けて（3年間の取り組み成果と今後の課題）～

発表者：木畑実麻・手塚由美

- ② 第40回日本リハビリテーションスポーツ学会研究大会（2019/11/23・24 筑波記
念病院）にて演題発表を実施した。

演題名：「リハ・スポーツ」人の多様性を包括する地域拠点づくり：ボッチャ交
流会実践報告

発表者：木畑実麻・手塚由美

(平成30年度日本リハビリテーションスポーツ学会活動助成を受け実施した事業の活動報告)

- ③ 日本リハビリテーションスポーツ学会誌に、平成30年度日本リハビリテーションスポーツ学会活動助成を受け実施した事業の活動報告を投稿した。

題名：「リハ・スポーツ」人の多様性を包括する地域拠点づくり

ボッチャ交流会実践報告著者：木畑実麻・手塚由美

- ④ せたがや福社區民学会（2019/12/7 日本大学文理学部）において発表を行った。

演題：「スポーツを通じた地域連携づくり-ボッチャを例として-」

発表者：露崎愛（社員）

(2) リハビリテーション・スポーツの支援及び能力開発に関する事項

(2) - 1 「東京ホームタウン大学見本市」

2020/2/20 東京大学伊藤国際学術研究センターにおいてブース出展参加した。輝水会の取り組む、リハ・スポーツ教室や水中リハビリ、今後展開予定の研修会「共生社会とは一障害のある人との対話を通して共に考える」についての案内を行った。

(2) - 2 「ライフシフトプログラムへの参加」

当期、東京都福祉保健局が行っている東京ホームタウンプロジェクトより、新たな取り組みでとして、働き盛りの世代が自分たちの暮らす地域に関心を持ち続ける事を目的とした「ライフシフトプログラム」への参加団体の依頼があり、当法人の事業に関心のある2組（総勢7名）より、当法人のリハビリテーション・スポーツの啓蒙に有意義な方法やツールの提案と発表があった。

(2) - 3 「せたがや福社區民学会におけるワークショップ」

世田谷人材育成・研修センター所長の瓜生氏より依頼があり、せたがや福社區民学会開催時に世田谷区の7大学より集まった学生を対象に「学生でつくる住み続けたいまち（世田谷）」をテーマに、三嶋前理事の語りとボッチャ体験を組み合わせた90分のプログラムを行った。

IV 会員等異動

1. 正会員及び賛助会員異動

	H31. 4. 1 現在	入会	退会	令和 2. 3. 31 現在
個人正会員	37	6	1	42
団体会員	0	0	0	0
賛助会員	3	0	0	3

2. 役員異動

	H. 31. 4. 1 現在	退任	新任	令和 2. 3. 31 現在
理事	3	0	0	3
監事	1	0	0	1
役員合計	4	0	0	4

V 会議等開催状況

1. 平成 31 (2019) 年第 7 期定時社員総会

令和元年6月17日15時05分から、東京都新宿区において、平成 30 年第7期定時社員総会を開催した。

社員の総数	37名
総社員の議決権数	37名
議決権を行使できる社員の数	37名
議決権を行使することができる社員の議決権数	37個
出席社員数(委任状による出席を含む)	32名
出席社員の議決権数	32個
出席理事	手塚 由美(議長兼議事録作成者)、小川 彰
欠席理事	木畑 実麻
出席監事	阿部 英雄

定刻、代表理事手塚由美から本日の定時社員総会は定款第12条の規定する定足数に達している旨の報告があった。次いで、定款第14条の規定により、代表理事手塚由美が議長席につき、

本会は適法に成立したので開会すること、定款第17条2号の規定により議事録署名人として、木畑実麻氏及び小川彰氏を指名する旨を宣言し、直ちに議事に入った。

決議事項

第1号議案 平成30年第7期(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

事業報告及び計算書類承認の件

議長は、まず阿部監事に監査報告を求めたところ、阿部監事より事業報告及び決算報告について監査報告書記載のとおり、特段あらためて指摘すべき事項はない旨報告があった。

続いて、議長より当期における事業状況を事業報告及び附属書類により詳細説明報告し、下記の書類を提出して、その後承認を求めたところ、満場一致で原案のとおり承認した。

1. 貸借対照表
2. 正味財産増減計算書
3. 販売費及び一般管理費明細書
4. 勘定科目内訳明細書

第2号議案 定款目的事項一部変更の件

第3号議案 監事選任の件

議長より、本社員総会終結をもって監事1名が辞任となるため、あらためて監事1名を選任したい旨提案があり、一同に諮ったところ、満場一致で原案どおり承認可決した。

選任された監事 山中 章江

2. 理事会 (年間全6回)

【平成31(2019)年度第1回通常理事会】

- ・日時 平成31(2019)年5月9日
- ・場所 新宿区新宿3-38-1 新宿東口 ルミネエストF7(ル) ハレノヒ
- ・出席理事 手塚、木畑、小川
- ・出席監事 阿部
- ・主な内容 平成30年第7期事業報告及び決算報告承認の件、平成30年第7期定時社員総会招集の件、平成30年第7期定時社員総会会場の件、監事選任の件、その他

【平成31(2019)年度第2回通常理事会】

- ・日程 令和元年6月29日
- ・場所 東京都新宿区新宿3丁目-32-10 新宿三丁目貸会議室5Fルーム501A

- ・出席理事 手塚、小川
- ・出席監事 山中
- ・主な内容 常務理事選定の件、新規個人会員入会希望の件、その他

【平成 31 (2019) 年度第 3 回通常理事会】

- ・日程 令和元年 9 月 17 日
- ・場所 東京都新宿区新宿 3-38-1 号ルミネエスト 8F モクオラディキシーダイナー
- ・出席理事 手塚、小川
- ・出席監事 山中
- ・主な内容 新規個人会員入会希望の件、スミセイコミュニティスポーツ助成金応募の件、その他

【平成 31 (2019) 年度第 4 回通常理事会】

- ・日程 令和元年 11 月 19 日
- ・場所 東京都新宿区新宿 3-38-1 号ルミネエスト 8F モクオラディキシーダイナー
- ・出席理事 手塚、小川
- ・出席監事 山中
- ・主な内容 事業活動集約の件、せたがや区民福祉学会ワークショップの件、その他

【平成 31 (2019) 年度第 5 回通常理事会】

- ・日程 令和 2 年 1 月 21 日
- ・場所 東京都新宿区新宿 3-38-1 号ルミネエスト 8F モクオラディキシーダイナー
- ・出席理事 手塚、小川
- ・出席監事 山中
- ・主な内容 新規個人会員入会希望の件、令和 2 年度事業計画・予算書の件、その他

【平成 31 (2019) 年度第 6 回通常理事会】

- ・日程 令和 2 年 3 月 24 日
- ・場所 世田谷区奥沢 8-30-10 本部事業所エレメンタルスタジオ内
- ・出席理事 手塚、小川
- ・出席監事 山中
- ・主な内容 令和 2 年年度事業計画・収支予算承認の件、令和 2 年度理事会開催日の件、その他

3. 役員名簿（令2年3月31日現在）

理事長（代表理事）	手塚由美
理事（常務研究理事）	小川彰
理事	木畑実麻
監事	山中章江

VI 令和2年度事業と展望

来期、早期に公益認定を申請するにあたり、公益目的事業についても具体性・明確性が求められることから、事業活動を整理する。

これまで、脳損傷や神経難病などにより生活機能に課題のある人を対象にした、健康づくりに特化した制度の隙間を埋めていくインフォーマルな（制度化されていない）サービスを提供してきた。来期、これらを3つの社会資源開発の柱に集約し、1「サービス開発」（社会参加支援プログラム開発）2「福祉人材育成開発（相互能力開発）3「地域開発」（地域連携開発）として実施する。

障害者支援を社会資源と切り離して論ずることはできず、その社会資源に対する利用者のニーズは多岐にわたり、さらに時代とともに変化する。したがって社会の変化により生じる様々な生活課題（ニーズ）に応じて、障害者支援も新たな社会資源を創出することと不可分に発展していくものと考えられる。世田谷区においても既存の社会資源だけでなく、地域の独自性を生かし、必要とされる社会資源を新たに開発し、それらを有機的に結びつけ、統合する地域福祉システムシステム（すなわち、「世田谷モデル」）の構築が喫緊の課題である。

公的制度のみに頼らないインフォーマルな機能（互助）が推進される中で、地域で暮らす人、居場所（拠点づくり）、地域コミュニティ、人と人との「つながり」やネットワーク等も社会資源（新しい公共）になる。例えば、当法人の「リハビリテーション・スポーツ」は、「制度の隙間にいる人」を支援することを目的にスタートした。この社会資源を生活課題（ニーズ）の解決に役立つ、広い意味での仕組みづくりや手段として、さらに発展させていくことが求められている。

以上のことから、当法人が考える「社会資源開発」は、新たな社会資源の開発や地域づくり、及び従来の保健福祉の関係機関や団体との連携だけでなく、幅広いネットワークを構築することを目的として、区民の健康づくりに関連する幅広い領域で活動する人々と連携し、「つなぐ（コーディネートする）」役割を担い、もって地域福祉の推進に寄与することを目指していく。

以上